

日本地衣学会

No.21

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	訃報.....	71
	本会名誉会員Dr. William Louis Culbersonへの弔辞 / 会長.....	71
	会員通信.....	73
	森を見て地球を考える カナダ プリティッシュ・コロンビア大学研修記	
	その2 / 南 佳典.....	73

訃報 Obituary

本会名誉会員 Dr. William Louis Culberson への弔辞

本会名誉会員 Dr. William (Bill) Louis Culberson (73歳)が本年2月8日デューク大学病院でご令室の Dr. Chicita F. Culberson に見守られながら逝去されました。

Dr. Bill Culberson (以後ビルと呼ばせて頂く)は、シンシナチ大学で Lucy Braun と Margaret Fulford の両教授の指導で地衣学への興味と関心を触発され、卒業後パリ大学に進学し修士号を、さらにウィスコンシン大学で John Thomson 教授の下で博士号を取得されました。同時代の学友に 故 Mason E. Hale 博士がいます。シンシナチ大学では生涯の伴侶 Chicita (チキタ) と出会い、以後、夫妻そろっての親密な二人三脚により地衣学の発展に大きな貢献をされました。夫妻の分類と化学の共同作業によって米国の地衣学ばかりでなく、世界の地衣学は大いに進展することになりました。

1961年には夫妻ともども来日され、資源科学研究所(所長朝比奈泰彦)で1年間、地衣成分の顕微化学結

晶法を駆使され *Cetraria* 属(広義)を中心とした地衣類の分類研究をされました。以後地衣類の化学分類を積極的に進められ、数々の優れた業績を残されました。

Bill は多くの栄誉を受けています。米国植物学会会長、米国蘚苔地衣学会会長を歴任されました。長年デューク大学で多くの学生を指導をされ、現在、米国をはじめ世界で活躍中の極めて優秀な地衣学者を多数育てられました。Sarah P. Duke Garden の園長を20年間勤め、園の拡張、改良を重ね、アジア調の庭園も付設されました。Bill は地衣学に関して優れた100篇以上の論文を執筆し、この半世紀世界の地衣学を先導されました。

昨年本学会の創設に際し、快く名誉会員を引き受けて頂き、心強い支援の言葉を頂戴しました。日本の地衣学者を理解し後援されていた友を失いました。今まで、日本の多くの地衣研究者が Duke 大学の研究室で Culberson 夫妻の薫陶を受け、またご自宅で歓待を受け、夫妻には大変にお世話になってきました。

20世紀の偉大な地衣学者、よき指導者であり、よ

き友であった Dr. Bill Culberson , その逝去を悼み ,
 ところからのご冥福を会員の皆様とともに祈ります .

日本地衣学会会長 吉村 庸

Obituary

Dr. William Louis Culberson (1929-2003)

It is a great sadness to hear Dr. William (Bill) Louis Culberson was passing away on February 8, 2003 in Duke University Hospital on 73 years old.

Bill received his B.S. degree at the University of Cincinnati, influenced greatly by Prof. E. Lucy Braun and Prof. Margaret Fulford, who steered him into lichenology. He studied at the University of Paris to get a M.S. and a PhD from the University of Wisconsin (Prof. J. W. Thomson). Bill had the good fortune to meet Chicita at the University of Cincinnati. He persuaded her to come to Wisconsin. This was the beginning of an incredible collaboration in lichen chemistry and taxonomy. After that, they have developed lichenology as a remarkable team in all respects, especially in lichen chemotaxonomy.

There are many Bill's honors. He was a president of the Botanical Society of America and the American Bryological and Lichenological Society. He taught lichenology for many years

at Duke and many students he inspired are now in full activity in many other fields. He was director of the Sarah P. Duke Gardens for 20 years and greatly expanded and improved it, especially by the addition of a Japanese garden, now named for him. In addition, Bill produced more than 100 scientific papers in lichenology and led world lichenologists.

When our society started in 2002, Bill accepted an honorable member of our society and gave us encouragement to our society as well as Japanese lichenologists. When he first came to Japan with Chicita in 1961, they studied especially Cerarioid lichens in National Science Resources (director Dr. Y. Asahina) for several months. During their stay in Japan, they met many Japanese lichenologists at the laboratory as well as at botanical meetings. Many Japanese lichenologists visited Duke University to meet Bill and Chicita and they received their kind hospitality and generous guidance to the lichenology. Personally I visited two times his home as well as Duke University in 1967 and 1979 with Dr. A. J. Sharp and received his kind hospitality with Chicita.

We have grieved for loss of the great lichenologists, Bill Culberson.

Isao Yoshimura
 The President

会員通信 From Members

森をみて地球を考える

- カナダ プリティッシュ・コロンビア大学研修記 - その2

北米太平洋岸の北西部では、5月くらいから急激に晴天日が多くなり、からっとした気持ちの良い日々が続くようになる。そのため、我々フィールドで研究を行う研究者達はこぞって野へ山へ海へと調査に駆け回ることになる。というような理由で長い間、研修記の続きを投稿するのを怠っていた次第である。

さて、前回書ききれなかった“Lynn Baldwin”氏の研究内容を簡単に紹介したい。彼女の研究は、森林が伐採等で分断化されることによる林床への影響を、いわゆる“edge effect”による多様性の変化を中心に議論を展開したものであること、前回の研修記に述べたとおりである。森林の分断化が進むと、多くの場合パッチ状に森林が残存する形になるが、そのパッチが小さくなればなるほどエッジ部（林縁部）の割合が多くなり、伐採による攪乱を受けた地域と隣接する部分が増加する。そうすると、エッジ部のような環境では生育できない植物（特に林床生）が出てくるのが予想される。事実、林冠によって十分に被陰され湿度や気温がある程度一定に保たれる環境に適応した種群は、エッジ部から消えていく運命にある。蘚類ではあるが、*Hylocomium splendense* や *Kindbergia praelonga* がそういった種である。一方で、攪乱地と森林との間に形成されるエッジ部は両環境の移行帯となり、そういった環境を好む種群も存在する。ここで、彼女は“機能グループ”および“生活史戦略（分散能力）”という概念を用いてそれぞれの種群を分類し、残存する森林のパッチ面積と種の多様性を議論している。前者は、たとえば林冠が閉鎖したところに出現するか、開いたところに出現するか、あるいはそのどちらにも出現するかなどでグループ分けし、後者はいわゆる r - 戦略者か K - 戦略者かというグループ分けである。ここではややこしい話は抜きにして結論を述べると、種の豊富さは皆伐地で最多となり、ついで Old Growth 林（いわゆる原生林）、二次再生林の順となっている。伐採地に生育する種がもっとも豊富

であるという結果は決して驚くべき事実ではない。Old Growth 林の中でも林床植生がもっとも多様になるところは、様々な要因によって形成される攪乱地およびその周辺である。攪乱後に形成される一時的な環境に適応して繁殖を行う、いわゆる r - 戦略者の存在がこの多様性に寄与しているのである。もちろん、Old Growth 林内ではその一時的な環境はすぐに修復され、元の林床植生に戻る（これを遷移と呼ぶか否かは些か議論の余地がある）。しかしながら、皆伐地における森林パッチのエッジ部では同様な環境が広範囲にわたり長く維持される可能性が高い。従って、種数を表現する種の豊富さでは皆伐地が最多になるのである。ただし、この話はあくまでも林床植生に限って議論されていることであり、実際の多様性の議論とは大きく異なることを一言付け加えておく。多様性とは、様々な生物とともに多様な生育立地の存在を考慮することが必須であることは言うまでもない。ほ乳類などは、残存する森林パッチごとに集団が固定されてしまい、遺伝的な多様性が格段に低くなることが懸念されている。種数だけでは生態系の健全性を論ずることはできないということである。

上述した彼女の研究は Vancouver Island で行われたものである。この島は（島と言っても九州程度の面積があるが）Georgea 海峡を挟んで大陸に隣接し、西部開拓時代から森林伐採を繰り返してきた地域である。伐採対象樹木は針葉樹で、主に Western hemlock (*Tsuga heterophylla*)、Douglas-fir (*Pseudotsuga menziesii*)、Sitka spruce (*Picea sitkensis*) および Western redcedar (*Tsuga plicata*) の4種類である。Western hemlock はこの島のほとんどの地域に生育し優占種となっている。Douglas-fir は北米西海岸の重要な樹木で、島の東側海岸沿いに多く生育し、樹齢1000年に及ぶ個体もみられる。この2種がこの島の優占種で、降水量によって分布が異なっている。彼女の調査地は両種が混生する地域であるが、両種の分布量も伐



図1. Vancouver Island 西海岸, Kite Lake にひろがる Old Growth 林にて.

採地の林床植生における豊富さに影響しているということである。非常に興味深い内容であるので早く論文にしていだきたいものである(もちろん, 学位取得に向けてがんばっていただきたいのはいうまでもない!)。

写真は, Vancouver Island 西海岸に広がる, いわゆる Old Growth と呼ばれる原生林内のものである。十

分な降水量があるので“ Rain Forest ”と呼ばれており, 樹高が 100m 近くまで成長する樹木も存在する。降雨林というと熱帯のものと思われるかもしれないが, 北米大陸北西部にもまさに“ 温帯降雨林 ”が存在するのである。次回は, そのお話しを中心に。

(南 佳典: 玉川大学農学部)

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see no. 13, p. 46 of this publication.

Lichenology 日本地衣学会ニュースレター
とも, 投稿先は:

原田 浩. 〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2
千葉県立中央博物館. Fax 043-266-2481.

E-mail: h.hrd3@mc.pref.chiba.jp

(原田浩: 編集委員長)

複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は, 許諾を受けてください。詳細は本誌13号46ページに。

Notice about photocopying

日本地衣学会ニュースレター 21号

発行日: 2003年7月7日

編集: 原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄
発行者・発行所: 日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内